



# 学校だより ながや

今年度も子どもたちの様子についてホームページを活用してお知らせします。月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。

学校ホームページ

QRコード



## 「副班長たいへんだよ」

校長 神田 敏之

朝、集団登校で来ていた5年生の子どもがこのように声をかけてきました。集合場所から学校に来るまで、副班長として声をかける場面がたくさんあったのでしょう。「大変だ」という言葉とは違い、よい表情をしていたので「やりがいがあるね」と言葉を返しました。するとうなずきながら「うん」と言って歩いていきました。

人は、周りの人のために行動することが、やりがいであり自分で自分を認めることにつながります。しかも今回の例のように、初めて任された役割であったり、自分にとって少し背伸びをした（努力が必要な）役割であったりすると、実行できた時の達成感につながっていきます。

学校では、給食当番や掃除当番などで、自分たちで生活をしていくにあたり、役割を分担しています。みんながそれぞれ役割分担をして、当番をすることにより、学校全体が気持ちよく生活できるようにしていきます。

係活動や委員会活動、クラブ活動、行事への取組などでは、自分で考えた活動を進めていくという場面があります。こちらも本校で進めている自分で考え、判断して行動していく、自分のリーダーを働かせる姿につながります。

係活動は、当番活動と異なり、役割を果たさなくても日常生活に支障はありません。しかし、係活動をすることによって、周りの人もうれしくなり、自分も達成感があり、また活動を続けていこうとする意欲につながっていきます。係活動を決めるときは、「〇〇さんと一緒に係になりたい」と係の所属を決めるのではなく、「自分は〇〇をしたい」ということが先にあり、似たような役割を希望している人が集まり係を決めていきます。そうすると自分でしょうと決めたことだから頑張ろうという意欲が出ます。

委員会活動では、委員会の代表として役割を果たす委員長を一人決めます。今年健康委員会でも委員長を決める際に、希望した人が四人いたそうです。すると子どもたちは、「四人で委員長の役割をするということにしてよいですか」と先生に言ったそうです。私はこの話を聞いて自分のリーダーの話が子どもたちに浸透していると思いました。委員長という役割を細分化し、四人で役割分担をしていけばよいのです。全体として活動がうまくいくことが目的で、だれがその役割を果たしてもよいのです。

私たち大人も考え方を柔軟にして、子どもが自分のリーダーを働かせるためには、今までの枠組みにとらわれないということも必要だと思ったできごとでした。